

2025年8月21日作成 Ver.1.0

## 《情報公開文書》

## 胸郭の形態異常と心房性不整脈に関する臨床的検討

## 研究の概要

## 【背景】

漏斗胸、側弯症、Straight Back Syndrome (SBS) といった胸郭の構造異常は、心臓に物理的な圧迫を与えることで、心房性不整脈の発症に関与する可能性が近年報告されています。しかし、これらの胸郭異常と不整脈の関連性については十分に解明されていません。本研究では、胸郭異常と心房性不整脈（心房細動・心房頻拍）との関連を明らかにすることを目的とします。

## 【目的】

胸部 X 線や心臓 CT などの画像診断を用いて胸郭形態を評価し、それらの異常所見と心房性不整脈の発症・再発・起源との関係を後ろ向きに解析することを目的とします。

## 【意義】

胸郭形態異常が不整脈の発症リスクに与える影響を明らかにすることで、不整脈のリスク層別化や個別化治療戦略の構築に貢献できる可能性があります。特に、若年・痩せ型の患者で見逃されがちな胸郭異常を早期に同定することで、予防的介入や治療の最適化につながることを期待されます。

## 【方法】

2016年1月1日から2025年7月31日までに当院で心房細動に対するカテーテルアブレーションを受けた患者さんの診療録・検査画像などの情報を用いて解析を行います。

## 対象となる患者さん

・2016年1月1日～2025年7月31日に当院で心房細動アブレーションを受けた18歳以上の患者さんを対象とします。

## 研究に用いる情報

## ●研究に用いる情報

下記の情報をデータベースより抽出します。

・患者背景：性別、年齢、身長、体重、血圧、脈拍数、心房細動罹患歴（発作性、持続性、長期持続性）、CHADS2 score、CHA2DS2-VASc score、併存疾患の有無、服用履歴（抗不整脈薬を含む）、

・臨床検査：白血球数、赤血球数、Hb、血小板数、NT-pro BNP、Na、K、BUN、Cr、eGFR、AST、ALT、TG、LDL、Glu、HbA1c。

- ・心臓 CT（造影）：左房および肺静脈の形態確認、左房容量計測、CTI 長計測
- ・胸部レントゲン：心胸郭比、胸郭前後径の計測、椎体の評価
- ・心エコー図検査：LAD, LAV, LAVI, EF 計測
- ・心電図検査：調律、期外収縮の有無
- ・アブレーション治療内容：CTI ablation に関する、手技時間、焼灼施行回数、両方向性ブロック作成の有無
- ・有害事象：アブレーション治療に伴う合併症

本研究で利用する情報等について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

**情報の利用開始予定日**

本研究は 2025 年 8 月 28 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。  
ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。  
あらかじめご了承ください。

**研究実施期間**

研究機関長の許可日～2030 年 12 月 31 日

**研究実施体制**

研究責任者	所属：長崎大学病院 循環器内科 氏名：大塚 開希 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095 (819) 7280
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

**問い合わせ先**

**【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】**

長崎大学病院 循環器内科 大塚 開希  
 〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号  
 電話：095 (819) 7288 FAX 095 (819) 7290

**【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）**

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7200

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）